

伝統的な農家を次世代へつなぐ改修

[応募者] 氏名：米谷良章 勤務先名：米谷良章設計工房
連絡先(勤務先)：TEL(0797)86-3687 FAX(0797)85-7687 Email: info@mai-a.jp

●地域性への配慮事項

この地域の集落に多くみられる厨子2階のある主屋、離れ、蔵の外観や屋敷の構えは、建設当時の姿のままを継承しています。主屋は棟札で安政年間建設されたことが確認されています。離れや蔵の建設年代の記録は残っていませんが、現在のご当主の聞き伝えによると、主屋の建設後まもなくのようです。外部の材料は、下から石積み、焼き杉下見板、漆喰塗りの大壁、いぶし瓦で出来ており、虫籠窓や丸い換気孔、水切り庇などが外観を特徴付けています。戦後、同じような形式で2階を居室にした住宅に比べると、低く抑えられた桁高がプロポーションのよさを出しています。地域の景観や住文化の継承のため、是非、次世代へ伝えたい住宅です。

●作品の概要

□事業主体(所有者)：個人(Mさん)
□設計者：米谷良章設計工房 □施工者：所有者直営
□計画概要

- 敷地面積：約2,000㎡(都市計画区域外)
- 延べ床面積：391㎡(離れや蔵などの付属屋を含まない)
- 階数：主屋と蔵の一部が2階建て、その他は平屋。
- 構造：主屋と離れと蔵の大部分は、既存伝統軸組み工法(石場立て)に床、耐震壁、小屋組みの一部を補強しています。主屋の内、DKは1975年頃に在来工法(RC布基礎)に改築されていますので、面材による耐震壁の補強をしています。増築部分は既存部分と構造的に繋げず、在来軸組み工法(RCベタ基礎、耐震壁は面材)としています。

●作品の特色～計画の目的

60代の親世帯は、娘や息子世帯の代へ住み継ぐための改修工事を、この計画が始まる以前から始められていました。主屋の屋根瓦の葺き替えと漆喰壁の塗り替えは既に完了した段階で、この計画が始まりました。先方の要望は、老朽化した納屋を解体して、主屋と別棟で息子世帯と娘の居室と味噌部屋などの納屋の一部の機能をつくり替えることでした。居室の規模は約30坪で、水廻りは、一旦外に出て主屋のものを利用する計画です。子供が結婚すると親世帯が、水廻りを新しくしたり、離れをつくったりすることは、このあたりでは一般的な習慣です。35年ほど前に親世

帯が結婚された時も、元のガイドコロに床を貼って、現在のDKを構造から造り替えています。南東側にあるミセであった部分を応接間に、納屋の一部を子供部屋に改修しています。

□世代間の要望のズレを解消する計画

計画を進めていくにつれて、世代間の要望にはズレがあることが顕著になってきました。親世帯には、150年の間、大きな手を加えることなく住み継いできた主屋への愛着は強く、手を加えることに強い抵抗感がありました。一方、子世帯は冬の寒さ対策を解消したい希望がありました。特に、マンション暮らしの長かった若奥さんにとって、このような農家の寒さに適応することに苦慮している様子でした。同時に、息子さんが親世帯の加齢に向けて、ヒートショック対策や段差解消をしておきたいという考えもありました。

この計画では、伝統的な住文化を残しつつ、世代間の要望のズレを解消していく必要がありました。快適、安心に繋がる耐震、劣化対策、温熱などの性能向上を加え、双方が満足ができる公約数を見出すことが課題でした。

シロアリ調査と動的耐震診断、軸組みの調査を経て、当初の計画が不合理であることを整理をして、別の計画をすすめる理解を得ました。

1. 生活上の移動が不便であること。
2. 主屋の耐震的な不安が残ること。
3. 温熱(主に冬暖かく過ごせるようにする)の改善が十分出来ないこと。
4. 特に主屋に暮らす親夫婦の生活が向上しない(特に便所は、2か所共に外部にあるので、ヒートショック対策、家の中のバリアフリー化が近い将来必要になってくる。)

□冬の生活ゾーンを断熱区画する

敷地は古川水域の肥沃な水田に面していますので、年中南北の風が吹く地域です。また、東西には山があり、西側は壁で閉じているので、夏の日射遮蔽はよい状態です。南北に大きな開口部があるので風通しがよく、厨子2階があるので、主屋の夏は過ごしやすいため、現状のままでも大きな問題がありませんでした。一方、冬は外気が氷点下になりますので、断熱や気密化を行いたいところですが、主屋の規模が大きいため、改修にコストがかかり過ぎます。しかも、玄関を特徴づけている障子と板戸が入りの跳ねあげ戸は、気密化が難しいので、日常的によく使うDKと水

廻り、寝室を断熱区画して、建具で仕切りました。家事室の壁は、内部に面していますが、玄関部分は外とみなして、断熱をしています。これにより、冬の日常空間を暖かく快適にしながら、断熱範囲を狭くすることで断熱コストを抑え、外観の良さを残すことにしました。

□コストバランスに応じた耐震計画

全体を3つに分けて、コストバランスのよい改修方法をとる。
A：伝統的な造りの主屋西部分は、Y方向を部屋廻りの壁に集中的に耐震的に粘り強さを発揮する壁を増設し、X方向は居間南側に口の字の耐震壁を設けて、開放的な造りの良さを生かしつつ、補強を行いました。これに加えて、床下と小屋の補強を行っています。

B：既に改修の手が入っている台所部分は、合板による耐震改修を行っています。主屋2階の外壁廻り(妻壁、虫籠窓下の通り)の荷重の集中する部分には耐震壁を設けています。(既存のRC基礎あり)

C：増築部分は、新築時と同じ耐震構造としています。(RCベタ基礎新設)

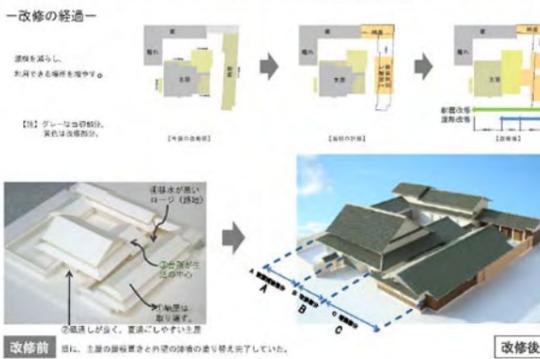
(注)親世帯は長年の習慣から、主屋のヘヤで就寝することを希望されていたので、ヘヤ部分の耐震性を優先しています。

□排水を中心とした劣化対策

改修前は、北側の中庭やロージ(納屋の西側)は囲われた部分になっており、排水が不十分でコケが生えていたので、北東側を開放して、排水溝を設けました。経年の土の堆積によって、水勾配が不十分であったため、敷地全体で土砂を鋤とって、北側の排水溝に流れるように水勾配をとっています。今回の計画が完了して2年後、蔵と離れの屋根を葺き替え、焼き杉を貼り替えて、劣化対策の修繕も完了しました。

その後、娘さんは嫁がれ、親世帯の寝室は主屋のヘヤから増築した洋室へ移動したと聞いています。冬暖かく過ごせるようになったこと、ベットで寝起き出来るようになったことなど、生活の利便性が向上したことによって、冬の生活の軸が改築部分に移動してくれました。伝統的かつ安心・快適な改修が完了したことになります。世代間のズレを解消しながら、愛着を持って、住み継いでもらえば、次は主屋に軸足を置いた安心・快適な改修が出来るチャンスが出来るでしょう。たぶん、息子さんの世代がまた、次の世代につないでくれることでしょう。

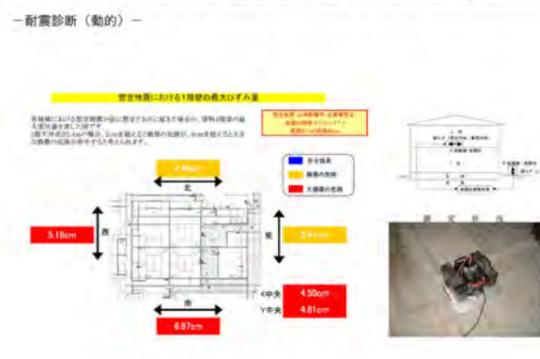
伝統的な農家を次世代につなぐ改修 No.1



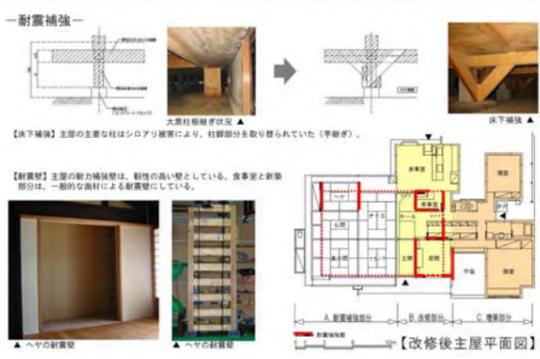
伝統的な農家を次世代につなぐ改修 No.2



伝統的な農家を次世代につなぐ改修 No.4



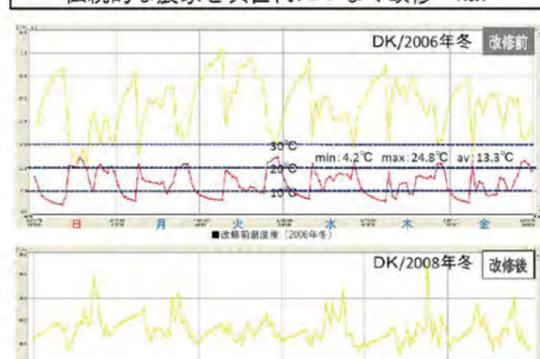
伝統的な農家を次世代につなぐ改修 No.5



伝統的な農家を次世代につなぐ改修 No.6



伝統的な農家を次世代につなぐ改修 No.7



伝統的な農家を次世代につなぐ改修 No.9



伝統的な農家を次世代につなぐ改修 No.10



伝統的な農家を次世代につなぐ改修 No.11

